丸山湿原群保全の会会報

（第 109 号）

発行日：平成 28 年８月 15 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会

〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
臨時連絡先　090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

雨がとにかく降らない。夕立もなし。考えてみれば丸山周辺は、梅雨明け以来まともな雨は降っておりません。しかも猛暑。この日も駐車場の気温観測（入口）ですでに３０℃。湿原がどうなっているのかとても心配でした。

先日、里山博物館より「網引湿原」の情報があり、あちらも雨が降らないとのこと、かなり乾燥しているようでした。

何をするにも熱中症にだけはご注意を！トンボもチョウも鳥もみな活動控えめです。人間も活動無理でしょ・・・・・マムシはええ調子や！　（今住　８月 13 日作成）

活動報告

★8 月 13 日（土）つらく苦しい晴

6名で活動。定期基礎調査、巡回、ごみ処理、観察、外来種除去

目的	市内	市外
丸山	54	36
ハイキング	10	20
その他	1	0

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度
入口	10：05	30℃	
視点場	10：57	34℃	
第３湿原	10：？	【23.5℃】	88μS/cm
第１湿原	11：13	【24℃】	80μS/cm
第２湿原	11：55	【27℃】	65μS/cm

【湿原までの道】

なぜか駐車場山手に紙袋の廃棄物。何かと思うと何と「琵琶湖のえび煎餅」しかも未開封が３箱。賞味期限は 2016 年 11 月 28 日。十分食べられる状態でしたが、ごみとして処理いたしました。何があったのか知りませんが、お土産にも、お山にも罪はありません。ごみの投げ捨てはやめましょう。

えび煎餅

駐車場近くの枯れ松ですが、里山整備事業として依頼された「西谷自治振興」が伐採してくれたようです。安全第一。これからはナラ枯れのコナラ（道沿い）もお願いすることになるのでしょうか。

成熟ツチアケビ

１０５号・１０７号で紹介した**ツチアケビ**はもうパンパン状態。間もなく倒れるに違いありません。雨風吹けばきっと・・・降ってください。

行く道みち**アブラガヤ（アイバソウ含む）の出穂。オトギリソウの終わりかけ**をながめつつ竹筒ポストへ。かなり多くの方がきておられました。ふと**水路を眺めるとほぼ水なし！**ということは**湿原の水もやはり少ないにちがいありません。**

【湿原の様子】

第３湿原の計測ポイントは、**鉄バクテリアで油が浮いているよう。水の動きがほとんどありません。案の定、電気伝導度も普段の３倍以上の値です。**

水道水が２００μＳ/ｃｍ前後といいますから低いのですが、腐植したものが流れ出ていない状態＝富栄養になっていきます。一時的なこととは思いますが、雨がやっぱり降ってほしい。乾燥化も進みます。

第３湿原の木道付近は水なし。しかし**サギソウ**は咲いていました。いつも出るミミカキグサは見当たらず。（第３湿原尾の出水口あたりでムラサキミミカキグサはありました。）**ミズギボウシ**は水がほしいよ、とおねだりしているように咲いていました。つ**ぼみが擬宝珠（ぎぼうし）に似るところからついた名前です。（橋の欄干や神社の手すり角につているとがった金具）**

ミカヅキグサとサギソウ

ミズギボウシ

近縁種オオバギボウシ（大葉擬宝珠）は山形県のほうでは「ウルイ」として栽培されスーパーなどで普通に販売、大変ポピュラーな食べ物だそうです。丸山にはありませんが人里近く（栽培？）でちょくちょく見かけます。

第１湿原もやはり水が大変少ない状態です。シルト（泥）が深いことを考えると地下水位は十分あると思われますが、表面が白く乾いているところやひび割れているところも見受けられました。やはり電気伝導度は普段の３倍以上の数値でした。マムシは元気！（ブログでチェック！）

しかしサギソウ・**ミカヅキグサ（県ＲＤＢ　Ｃランク）**・ミミカキグサ類・**アギナシ（県ＲＤＢ　Ｃランク）**は全盛期を迎えていました。スゲ類が枯れかけ少し茶色ぎみには見えましたがよく見ると美しい景色です。

ヒナノカンザシ

ヒナノカンザシ全体

ケシンジュガヤ（マネキシンジュガヤ）・ヒナノカンザシ（どちらも県ＲＤＢ　Ｃランク）がイシモチソウと同じような比較的よく乾燥したところで咲いていました。どちらも注意しないと見つけられない植物です。見晴らし台からは見えませんのでぜひ**サギソウ開花数調査**にご参加ください。ばっちりガイドいたします。かわいいけれど地味です。ご承知を。（老眼鏡いやルーペ・・・）

第４湿原は、付近樹木伐採の効果が一番現れている場所かもしれません。湿原自体の広がりは？ですが、サギソウの開花数・ハッチョウトンボ数等昨年から相当増えているように感じます。

最後にナラ枯れは思った以上に多くのコナラを枯らせています。顧問から「大丈夫」とご意見をいただいておりますが、見た目のインパクトは大きいです。ただ朗報としてキノコガたくさん生えるそうです。ナラ菌を運ぶのだから当たり前か！**ナラタケだ！（生食は避けた方がいいとか）**

※「第３湿原 夏季草刈り、木本除去」７月３０日（土）はブログでご確認を。決死隊でした。

次回活動日８月20日（土）８月28日（日）９月１０日（土）ご参加ください。

訃報：会員の　栗　義弘　さん　がご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。
（連絡先ご希望の方は今住まで）

ＨＰ・ブログオープンしています。ブログへの感想・意見書き込みお願いします！
アクセス方法は「北摂里山博物館」から環境活動団体リンク。通常の検索エンジンで検索をかけると、「丸山湿原群保存の会」というのが先にきますので要注意！！
これは以前の活動の間違い表記です。**「丸山湿原群保全の会」ですから間違いなく。**
※会報のメール配信希望の方は
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com　にご連絡ください。
　会報用の原稿と画像(丸山エリア)を募集！載せたい記事、こんな発見など、なんでも結構です。上記アカウントまで投稿お願いします。

今回（８月１３日）の植物　アギナシ（顎無）【県ＲＤＢ　Ｃランク】

アギナシ花

アギナシ葉　顎なし　別れかけ

アギナシ葉　分かれた後　顎在り

アギナシ（顎無）は漢字の通り顎（あご）がないと書く。いわれは上記写真の通り。葉は最初矢じりのようではなく**長細い葉である。それを顎（あご）がないと見立てた**ようである。その後顎のように二つに分かれ矢じり型となる。ちょっと理解しがたいような・・・・・

同じ仲間でそっくりのオモダカ（面高）がある。クワイの原種。
　武家の家紋としても縁起がよいとしてつかわれる。**これは面（顔）が高く出ることから、立身出世を著す。面（顔）は葉である。矢じり型の葉を顔に見立てている。**今回の画像はアギナシ・オモダカとも葉が貧相だが、ほっぺが盛り上がったような立派な葉がよく図鑑に出ている。（オモダカは丸山には無い。）

オモダカ（玉瀬水田８月７日撮影）

どちらも水田雑草ということになっているが、アギナシは水田には出ない。自然度の高いところのみに出る。休耕田には出るそうだから、以前の田んぼはよほど自然度が高ったことになる？**見た目は全くと言っていいほど区別はつかない。方法は葉の先端がとがっているのがオモダカ。少し丸まっているのがアギナシ（ルーペ必要）・・・**というが**まずダメ**。慣れてくると見分けがつく？**田んぼにあればオモダカでいいだろう。**もう一つ、**アギナシは葉の付け根の部分にムカゴを作るがオモダカは作らない。**もちろん引き抜かないとわからない。抜けますか？貴重種を。